

洋書輸入協会会報

VOL. 21
NO. 9

(通巻245号) 昭和62年 9 月

理事会報告

7月28日(火)

(一) 規約最終稿

印刷に付する規約の最終稿を検討の上決定した。さらに細部については総務委員会で決定することとした。

(二) 事務局夏休み

8月1日から9日までを事務局長の夏期休暇とし、事務局を閉鎖することとした。ただし事務局の鍵は別に保管し、会員が利用できるようにした。

(三) その他

ABPを約2億1千万ポンドで買収して、世間をあっと云わせた。この買収劇には、アメリカのサイモン・アンド・シャスター、イギリスのピアソン、オクトパスなどが参加して競り合っていたが、ITOが最も有利な条件を出して勝利を得たものである。

(The Bookseller 6月19日号などより)

「ザウル社の身売り」

西ドイツのK. G. Saur社は、去る7月、イギリスのButterworths社に買収された。買収金額は発表されていないが、Saur社の年間総売上高の倍以上と目されている。このButterworths社はもともと図書館学や書誌類の出版に強いが、すでにアメリカの分野の第一人者R. R. Bowker社を手中に収めており、今度はヨーロッパの第一人者を傘下に入れたわけで、その狙いは明らかである。

なお、Butterworths社の新会社のReed社は、やはりこの7月に、Paul HamlynからOctopus社を5億3千五百万ポンドで買い取った。これで一般書部門をも大きく補強し、押しも押されぬ一大出版コングロマリットにのし上った。

(The Bookseller 7月10日号他より)

海外ニュース

「ITOがABPを買収」

カナダを本拠地とする出版コングロマリットのインターナショナル・トムソン・オーガニゼーション(ITO)は、一昨年傘下のハミッシュ・ハミルトン、スフェアー、マイケル・ジョセフなど有力出版社をペンギン・グループに売り渡して、イギリスから撤退したものとされていた。しかし、去る6月、イギリスの大出版グループ、

理事会報告……………1	洋書輸入協会史(23)……………3	書籍展示会のおしらせ……………5
海外ニュース……………1	書物にかかわる歌(その7)……………4	おしらせ……………5
東京税関東京外郵便出張所の 人事異動について……………2	よこめし・たてめし(7)……………5	広 告……………6

「米国書籍の売上高」

アメリカの出版者協会(AAP)が発表した統計によると、アメリカの1986年の書籍の総売上高は\$10,454,500,000で、前年より5.8%増加した。最も好調に伸びたのはビジネスその他専門分野で、18.6%の成長、続いて児童書のハードバウンドが15.7%、ペーパーバウンドが12.4%の伸びであった。ラックサイズの大衆市場向ペーパーバックは0.1%と伸び悩んだ。

なお、AVその他のメディアは36.5%と大きく伸びている。

(Publishers Weekly、6月26日号より)

「オランダでの熱い戦い」

オランダの世界的な学術出版社のグループ、ElsevierとKluwerの間で、今きわめて熱い戦いが繰りひろげられている。21世紀に生き残るべくElsevierが申し入れた友好的な協力要請がKluwerに冷く拒否されて、アメリカ流の敵対的なTOBをかけたのである。これに対しKluwer側も応戦、イギリスのRobert Maxwellやオランダの大グループVNUが応援にかけつけるなどして、混戦模様となっている。

—(株)紀伊國屋書店提供—

東京税関東京外郵出張所の人事異動について

(通関委員会)

昭和62年7月1日付にて、東京税関東京外郵出張所の人事異動が行われました。現在、所長以下担当係官及び事務分担は以下の通りになっています。

所長 福佐浩一	総務課長	山下直彦	出張所の事務の総合的企画及び運営等。
	統括審査官(輸出)	坂口敏朗	輸出郵便物の通関事務。もとし税又は還付金関係事務。外為法関係事務。証明書交付。
	統括審査官(輸入総括)	萩原 謙	輸入通関事務の調整。評価関係事務。収納、還付関係事務。
	特別審査官	三浦文夫	無体財産権及びワシントン条約関係事務。特惠管理・税率適用等・外為法関係事務。
	統括審査官(輸入1)	長岡義則	海上輸入郵便物の通関事務。
	統括審査官(輸入2)	江口昌宏	
	統括審査官(輸入3)	福岡信夫	航空輸入郵便物の通関事務。
	統括審査官(輸入4)	富樫 聡	
	統括審査官(輸入5)	鹿住 正	輸入郵便物の受付事務。保税運送の承認。証明書交付。
	統括審査官(輸入6)	林 四郎	海上輸入郵便物の通関事務(到着通知扱いのもの)。ブック通関事務(輸入第6部門専担)。
	統括審査官(輸入7)	堀内 格	
	統括審査官(輸入8)	長久俊樹	航空輸入郵便物の通関事務(到着通知扱いのもの)。
	統括審査官(輸入9)	伊藤徹夫	
次長 古沢今朝雄	税関相談官	山内春美	通関相談。苦情処理。通関指導と税関業務の広報関連事務。

洋書輸入協会史 (23)

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

〔追記〕

23.17 極東貿易の件補遺、訂正

極東貿易に勤務され、最後までその跡始末に当られた福島正和氏のお話が伺えたので、従来の記述に欠けていた部分の補遺や間違っていた部分の訂正を以下に追記する。

23.17.1 極東貿易創立前後の人脈

従来の記述の中に全く出て来なかったが、重要な人物の一人として田中辰次氏がいる。同氏は終始同社に在籍したが、洋書を担当したことがなく、また途中で入院などもしていたので、CIE プランの話の中には登場しなかったもの。

極東貿易の創立時は、浜田久蔵氏と、この田中辰次氏及び福島京一氏の三人が役員となり、浜田久蔵氏の兄光作氏を社長に据えた。このうち浜田久蔵氏と田中辰次氏は日配の海外課に勤務していた仲であり、福島京一氏は浜田氏の下宿仲間であった。

昭和22年6月に鉱工品貿易公団が設立され、出版物の輸出入は同公団の雑品部が担当することになった（洋書輸入協会史(8)、昭和61年5月号、Vol.20、No.5の10項参照）。雑品部の中では紙業課が出版物の輸出入を担当するが、その紙業課に日配から田中辰次氏といで氏とが外向していた。

日配はその後解散となるが、解散の前に浜田久蔵氏はここを退職し、極東貿易を作り、兄の光作氏を社長とし、田中氏と福島氏を誘って共に役員となっている。田中氏は日配に入る前には貿易を手掛けていたことがあり、その経験を活かして極東貿易に鉱工品部を作り、石炭・塩・玩具・マシンなど多彩な物品の輸出入を行っている。

また田中辰次氏は、鉱工品貿易公団に外向していた関係から通産省と人脈が通じていた。更に極東貿易には太田という日系2世がおり、この人が非常に英語が達者であって、CIEに自由に出入り出来る実績を持っていた。

この太田氏のことから推察すると、CIE プランを競争入札へと指導し、極東貿易落札を可能にしたのは、通産

省ではなく CIE であったようであり、通産省は洋書輸入業界と同じく被害者の立場にあったといえるのかも知れない。

23.17.2 極東貿易の途中経過

極東貿易が発足したのは深川の事務所からであり、深川に倉庫を持っていたからではない（洋書輸入協会史(20)、昭和62年6月号、Vol.21、No.6のp 4、23・7項「極東貿易という名称及び所在地など」参照）。倉庫というのは同じく深川の石川組の倉庫を借りていたもの。（訂正事項）

極東貿易株式会社の名称は、当時解体されていた三井物産の機械部が独立して、同名称を社名としたものとまたま一致したものであるが、その当時は全く分らず、その後もこの偶然の一致を意識的に利用しようとしたことはなかった由。

同社は深川から神田駿河台へ引っ越し、更に丸の内の三菱仲三号館に引っ越した。三菱仲三号館はかわぞえ商会からの又借である。仲五号館を借りていたことはない。丸の内を借りたのは中野氏の世話であり、同氏が浜田光作氏の後を承けて社長となったが、同氏は旧制五高時代は池田勇人氏と一緒に、外務省出身で、漢口の総領事などをしていたことがある。

洋書輸入協会史(20)、昭和62年6月号、Vol.21、No.6の23.6、「極東貿易株式会社の組織」の項に、吉田善伍氏が中野氏の後を承けて社長になったように記したが、これは誤りで、同氏は社長になったことはなく、登記していない会長に短期間就任したに過ぎない。

また23.8「極東貿易株式会社の仕事ぶり」の項の中で、「振鈴社という別会社を利用して」と記載したが、これは別会社などというのではなく、福島京一氏の父上が経営していた会社で、名義だけの貸借であつたらしい。

23.17.3 極東貿易初期の図書取扱い

極東貿易は、駿河台に居たときに既に米国 Macmillan 社の代理店となっている。また P.D. Perkins 氏が、コロ

ピア大学図書館へ日本図書を補充する仕事の代理権を取り、それを守屋氏が鉱工品貿易公団に持ち込み、その関係で極東貿易が日本図書を公団経由米国へ輸出する仕事をやっている。

その頃既に同社は、有力古書店と組み、日本のバックナンバーの輸出と、米国のその輸入を手掛けていた。

福島氏によれば、極東貿易がエロアを引き受けていたという記憶はない由。

同社は、CIE プランを引き受ける頃には、丸善からベテラン2人を引き抜いている。

23.17.4 極東貿易挫折の理由と挫折後のこと

福島氏によれば、同社がうまくいかなかった最大の理由は、同社が図書中心で発足したにもかかわらず、本以外の分野に手を染めて企業規模を上げすぎ、そして本以外の分野の収益の悪さが本を食ってしまったこと。印度との塩の貿易を始め、赤字の出たケースがいくつかあった模様である。

不正はなかった。しかし接待費、飲食費を多く支出していたのは事実であろう。

同社は、うまくいかなかった昭和26年の秋頃に、三菱仲三号館から浜松町に移り、更に神保町の波多野ビルへと移転した。倒産後は名称も極東通商と変更している。

後始末は、協会史②、23.12項にあるように霞山会館で行われたが、その他に東京銀行にも一室を借りている。これは極東貿易がL/Cを東京銀行経由で開設したのが決済出来なくなり、東銀は入荷した本を抑え、競売に掛けようとしていた。これを聞いた福島正和氏が東銀を説得し、担保の本を直販することとした。東銀の一室はそのため借りたものである。結果としては東銀の債務を償却し、余剰金を通産省へ返却することが出来た。昭和27年のことである。

23.17.5 極東貿易事件の知られていない後始末

極東貿易の社長は、「陳謝状」を出す頃(昭和27年1月、協会史②、昭和62年8月号、Vol.21、No.8所載、23.14項参照)までは中野氏であったが、その後浜田久蔵氏と交代し、倒産後極東通商と名称変更した頃は、一木寛心(イ

チキカンジン)氏が社長となっている。

そして極東貿易株式会社時代に生じた通産省への債務の残額は、浜田久蔵氏、福島京一氏、田中辰次氏、それと一木寛心氏の4氏の連帯責任として通産省との間に貸借関係として存続され、この4氏は以来毎月各人毎に500円宛月賦で返済をしておられる由。

このことは我々としても初耳であり、このような形で債務が返済されていることは全く知られていなかった。極東貿易事件は今日に至るまで終わっておらず、一木寛心氏は別として当時の責任者の3氏が、今日に至るまでその責任を負い続けているとは意外な事実である。極東貿易事件より36年を経過し、既に恩讎(おんしゅう)の彼方へと過ぎ去った今日、なお返済を続けておられる4氏に対し、特筆して同情の意を表する。(続く)

書物にかかわる歌(その7)

ふみ
書読みて楽しかりにし昨思へば煥搔きほぜり冬よるべ
なし
北原白秋

白秋生前最期の歌集「黒檜」昭和15年刊、に収められている。歌集の序の中にも「薄明二年有半、我がこの境涯に住して、僅かにこの風懷を遣る。」云々とあるように、当時は眼疾から半失明の状態にあった。

歌中のきざには、大言海その他のどの辞書にも「きのう」「昨夜」の外の意はないが、ここでは広く過ぎた日を表しているようだ。本を読む楽しみを奪われて所在なくただ火鉢によっているのだが、「冬よるべなし」がよく効いている。書物を愛するものにとって、読書が出来ないことほど辛いことは他にあるまい。

白秋の歌は、もともと南国生まれにふさわしく色彩感覚に富み繊細華麗な作風が特徴だったが、はからざる薄明のうちに墨絵のような東洋の静寂の詩境に入っていた。死に2年先立つこの歌集のなかには〈おほおしく若葉(わかば)さむこの眺(なが)め雨(あめ)の待たず我が眼(め)盲(くら)ひむか〉や〈我(われ)取(と)りて道(みち)に言(い)はずも読み読みて盲(くら)ひしふたつの眼(め)かくあり〉がみられる。(A. A.)

よこめし・たてめし (7)

前回は、「すきやき」の肉を生卵にくぐらせることや、「てんぷら」をトップリと「天つゆ」に浸すことは、一考を要するのではなかろうか、と云いかけて、話が尻切れとんぼになってしまったが、主人側である我々のすることを、お客である外国の人が倣うとして、肉片に生卵をまぶすことや、揚げものをスープに浸すことに、何の違和感も覚えない、といったら却って嘘になろう。だから、主人側としても、ほんの一寸、心づかいをする必要があるので、「すきやき」の時なら「我々はこんな風にするが、別に決ったわけではないのですから、あなたはまず卵なしで喰べてみたらいかがですか」と教えてあげるのが親切というものであろう。その点「てんぷら」について言えば、以前から塩をつける方法もあったから、大分開けているといえよう。そして近年外人のお客さんが増えるにつれ、味塩、レモン、と種類が増え、ついにはカレー粉も出現するにいたった。この勢いで、推移せんか、いまに「チリパウダー」や「シナモン」その他もろもろの香料が並べられ、お客の眼前は、さながら中華ソバ屋の看板の如き観を呈するのではなかろうかと、「江戸前天ぷら」を愛

好する旧派の一人としては、いささか心配になってくる。まア、あまり気を使い過ぎて、髪の毛をさらに薄くしても始まらないから、ここは外来の客の自由な選択にまかせることにする。カリッと揚がった穴子に、カレー粉をまぶして、お客が目を白黒させようが或は「ベリーグッド」と微笑もうが、当方は一切関知せず、というのも一興であろう。

人の好みは十人十色というけれど、逆に洋の東西を問わず共通するものも数多くある筈で、ある本でロスアンゼルス「すしバー」の話を読んでいたら、アメリカのお爺さんが、その「すしバー」の付け台で、握りずしのご飯を小鉢に入れて、ダボダボと醤油をかけ茶色く染まった飯粒の一つ一つを口に運んでは、美味そうに酒（この場合、それはバーボンかもしれない）を飲んでた、という話が出ていた。へエーッと感心していたら、その後読んだ金子信雄氏の「喰いものばなし」の中には、酒の肴には飯粒の醤油まぶしが好きだ、という一行があり、再度感心させられたことである。

(つづく) (K. S.)

書籍展示会のお知らせ

第8回国際英語教材展

English Language Book Fair

1987年11月14日－15日

大阪市阿部野区松崎町2－9－36

天王寺アカデミー専門学校

お知らせ

次の通りFax専用番号設置の通知がありましたのでお知らせします。

アメリカ大学出版局グループ

Fax No. (03)472-9706

なお、(03) 450-2857は電話専用になります。

The New England Journal of Medicine



175 years
at the forefront of medicine

1812年1月、アメリカの
新しい雑誌

The New England
Journal of Medicine
and Surgery, and
the Collateral

Branches of

Science は、

ボストンの John C. Warren

及び James Jackson 両博士を



J. C. Warren

編集者として創刊された。

第1号には、狭心症、
熱傷の治療、小児の

胃腸障害等に

関する論文が

載せられた。

今日なお、

225,000人以上の

購読者が The New

England Journal of

Medicine から医学全域に渡る

最新の情報を得ている。

創刊175周年を迎えた

NEJM を購読

頂くことこそ、

最新医学知識を

学ぶ唯一最良の

方法であります。



James Jackson

The New England Journal of Medicine

ORIGINAL ARTICLES	
Cardiovascular Disease	101
Respiratory Disease	102
Neurology	103
Endocrinology	104
Immunology	105
Microbiology	106
Pathology	107
Pharmacology	108
Physiology	109
Statistics	110
Editorial	111
Correspondence	112
Book Reviews	113
Special Reports	114
Announcements	115
Index	116

* 週刊 1988 (Vols. 318-319)

* 年間購読価格

一般 ¥21,000 レジデント ¥15,400 学生 ¥13,000

3年までの複数年のご予約も1年毎の年数倍にて承ります。

* 専用バインダー<1年分> ¥7,600

日本総代理店 (株)南江堂洋書部

〒113 東京都文京区本郷3-42-6 ☎(03)811-9950

昭和62年9月 通巻第245号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

〒103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル612号室

☎271-6901 FAX 271-6920

〒530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル

☎371-5329